

令和7年度第1回岡崎市地域公共交通会議 会議録

1 開催及び閉会に関する事項

令和7年5月23日（金）15時00分～17時00分

2 開催場所

岡崎市役所福祉会館6階大ホール

3 出席者氏名

(1) 出席者（18名）

松本	幸正	委員	（名城大学 理工学部社会基盤デザイン工学科 教授）
松尾	幸二郎	委員	（豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 准教授）
高井	勇輔	委員	（名古屋鉄道（株））
藏地	弘典	委員	（愛知環状鉄道（株））
後藤	泰之	委員	（名鉄バス（株））
玉置	文博	委員	（名鉄東部交通（株））
浅岡	林平	委員	（愛知県タクシー協会岡崎支部）
徳田	裕二	委員	（（公社）愛知県バス協会）
猿渡	博士	委員	（愛知県交通運輸産業労働組合協議会）
鷺山	幸男	委員	（岡崎市老人クラブ連合会）
浅野	宗夫	委員	（岡崎市障がい者福祉団体連合会）
松原	秀敏	委員	（六ツ美中部学区エリアバス運営協議会）
江川	晃平	委員	（国土交通省 中部運輸局）
原田	光一郎	委員	（国土交通省 中部運輸局 愛知運輸支局）
森本	恭平	委員	（愛知県都市・交通局交通対策課）
森	治紀	委員	（愛知県 西三河建設事務所 維持管理課）
渡辺	大祐	委員	（愛知県警察岡崎警察署）
鈴木	晃	委員	（岡崎市 副市長）

(2) 出席者（意思表明書提出 4名）

豊田	智隆	委員	（東海旅客鉄道株式会社）
多々内	丈雄	委員	（岡崎商工会議所）
長坂	秀志	委員	（岡崎市総代会連絡協議会）
鈴木	勝彦	委員	（額田地域生活交通協議会）

4 説明等のため出席した事務局職員の職氏名

岡田 晃典（総合政策部長）	木下 政樹（地域創生課長）	三浦 貴之（副課長）
竹内 雅晴（主任主査）	稲垣 康彦（主査）	熊谷 大輝（主事）
澤田 和樹（主事）	安藤 寛人（事務員）	

5 傍聴者、随行者等

7 名

6 協議事項

(1) 令和 6 年度決算報告及び監査報告について

資料 1 に基づき説明

鷲山委員より監査報告

本件について委員より質問や意見はなく、報告のとおり承認された。

(2) 岡崎市地域公共交通会議財務規程の改正について

資料 2 に基づき設営

<以下、各委員の意見等>

委 員： 昨年度までは、岡崎市地域公共交通会議財務規程第 4 条第 3 項に基づいて租税公課の支払いをしていたものを、今年度から予算区分として新たに設けるということでよいか。

事務局： そのとおりである。

(3) 令和 7 年度事業計画（案）及び予算（案）について

資料 3 に基づき説明

<以下、各委員の意見等>

特になし。

(4) 岡崎市地域公共交通計画の評価結果について

資料 4 に基づき説明

<以下、各委員の意見等>

委 員： タクシーの利用者数減少について、観光利用が減っているだとか、サイクルシェアの利用者数増加に伴い近距離での利用が減っているだとか、詳しい利用状況がわかるとよいのでは。

公的資金の投入額が多少増加したとあるが、人件費増加は運転手の賃金上昇などに繋がっていれば、必ずしもネガティブな話ではないと思う。

沿線の人口減少について、市全体の減少率と沿線の減少率が比較できるとよい。

委員： 地域によってはサイクルシェアの利用によって近距離のタクシー利用者が減っていると聞いている。

事務局： タクシー事業者１社が廃業しており、同社の利用者数は年間約７万人だったが、市全域でタクシーの利用者数は約１０万人ほど減少していることから、少なからず影響は出ていると思われる。

公的資金の投入額については、内訳の把握ができていないので、事業者と話をしながら今後確認をしていきたい。

沿線人口については約４５０人の減少となっており、市全域の減少から見ると沿線の減少率の方が少ないと考える。

委員： サイクルシェアの利用回数が伸びているとのことだが、来訪者の利用がバスの利用にどれだけ影響があるかわからないが、市民の生活利用と来訪者の利用回数は分けて考えるべきではないか。

ライドシェアやデマンド交通が出てきた中で、鉄道・バスの沿線人口という指標を今後も使い続けていくのか。

事務局： サイクルシェアの利用状況は、朝夕の通勤や日中・土日の若者の観光が多いと感じており、バスやタクシーへの影響が出ていると思う。

交通空白を解消するためにデマンド交通などの取り組みを実施しており、そういったエリアは交通空白ではない考え方をしていかなければいけない。次期計画の中で指標を考えていければと思う。

委員： 民間事業者のシェアサイクルを公共側でも活用できるような方策を今後考えていくとよいかもしれない。また、タクシーやバスが利用できるような人が集まる環境にサイクルシェアが入ってきて、既存の公共交通機関の利用者が流れてしまっている現状でもあるので、そこは何かの手立てを考えないといけないのかもしれない。

委員： 運転手確保策の実施に向けた取り組みとして、岡崎市は名鉄バスと協定を締結して外国人運転手の確保に取り組んでいると思うが、この他に取り組んでいることはあるか。

事務局： 名鉄バスとの協定のみである。

(5) 地域公共交通計画別紙（案）について

資料５に基づき説明

<以下、各委員の意見等>

委員： 大沼線の利用状況がよくないということで、補助から落ちないように大沼線の利用促進について考えないといけない。

委員： 額田地区で実施したコミュニティ交通のアンケート結果をどのように反映させていくか。

事務局： 額田地域はコミュニティバスの他、小中学校のスクールバスも運行されており、スクールバスも含めて効率化が図れるかを考えていく必要があると考える。

委員： 取り組みとして計画の中に「アンケートの結果を反映し」というような言葉を明記した方がよいと思う。場所や入れ方は事務局に一任する。

委員： 令和7年度は交通少年団の交通安全大会が実施されないと聞いたが、どうか。

事務局： 実施の有無の把握はしていないので確認しておく。

委員： 下山地区線の利用率が上がっているが、何か要因があるか。

事務局： 下山地区線の沿線にある下山小学校が特認校制度の対象小学校となっており、下山小学校への通学利用や、逆に下山地区から市街地の高校への通学利用が影響していると考え。

委員： 額田地域は山歩きなど何らかの目的になりうるので、そういった用途でバスの利用者数を増やしていくというような考えはあるか。

事務局： 豊富、宮崎、形埜の3地区線の主な利用は、地域内の診療所への移動が中心となっており、週1日の午前中を中心としたダイヤになっているため、山歩きでの利用ができるかどうか課題があるが、観光部局とも連携しながら情報発信していきたい。

委員： 1つの路線だけでなく他路線を乗り継ぐなどすれば、額田地域への行き来は可能である。

事務局： これまで生活交通にフォーカスしてきたので、観光利用という視点でも見てみる。

(6) 岡崎市地域公共交通計画の改訂について

資料6に基づき説明

<以下、各委員の意見等>

委員： 無理なく、実のある、市民のかたに期待を持ってもらう計画を期待する。

委員： 地域交通が目指す姿と、現状と課題の洗い出し、この2つが重要。

委員： 公共交通が果たしている役割や公共交通のいいところなどが伝わるコラムのようなものを計画の最初に持ってくると、市民にとってわかりやすくなるのでは。

(7) 地域内交通の手引「みんなでつくる 地域の交通」のアップデートについて

資料7に基づき説明

<以下、各委員の意見等>

委員： 資料7-2の4ページは「自家用有償旅客運送（公共ライドシェア）」となっているが、6ページではいきなり「公共ライドシェア」となっているので、表現を揃えてほしい。また、章構成がわかりにくい気がする。目次がない。

事務局： 地域の皆さんに活用してもらう手引きなので、読み進めていくうちにわかるような構成にする。

委員： 道路運送法上の内容など確認しているか。

事務局： 令和6年度第5回の本会議で内容を確認いただき、指摘はないとの回答をいただいている。

委員： 意見等がなければ、事務局と会長で調整して公開に繋げていけばよいのでは。

(8) 公共交通利用促進事業（スマートムーブアクション2025）について

資料8に基づき説明

<以下、各委員からの意見等>

委員： バス業界の人手不足解消につなげるため、運転免許証を持った人が、実際にバスを運転するような体験会を実施してみてはどうか。隣の豊田市では来週、そういった企画が開催される。

事務局： 運転手確保策の実施に向けた取り組みにも繋がるので、ぜひ御提案いただきたい。

委員： 小学生のバス無料乗車デーは、豊橋市では同様の取り組みとして1か月に1回、路面電車の無料乗車デーが、企業の協賛で実施されている。企業にとっては、宣伝効果が大きく、そこまで大きな出費ではないので、そういったことも考えてみるとよいのでは。

事務局： 本市の小学生のバス無料乗車デーは、事業者の持ち出しで実施しているので、こういったことも考えていきたい。

委員： 公共ポスターコンクールについて、小学校が配布する課題一覧みたいなものに載せてもらってはどうか。

事務局： 夏休み前に配布される自由課題の一覧の中に載せてもらうよう教育委員会へ相談し、概ねの了解は得ている。

委員： バス無料乗車デーを使った子どもたちに、作文を出してもらうなどをしてもらってはどうか。

事務局： 今年度できるかわからないが、できる範囲で教育委員会と連携を検討する。

7 報告事項

(1) 「中岡崎駅・岡崎公園前駅周辺地区バリアフリー基本構想」について

資料9に基づき説明

<以下、各委員の意見等>

委員： ここで示される道路管理者とは誰を指すか。

事務局： 市道の道路管理者を指します。

(2) 電動キックボード実証実験結果及び今後の運営について

資料10に基づき、公園緑地課から説明

<以下、各委員の意見等>

委員： ループの自転車も見たが、自転車もやっているか。

公緑課： 3月3日の民間事業から自転車も開始したと聞いている。

8 連絡事項

次回会議（令和7年第2回）予定について連絡をした。

— 会 議 終 了 —